

第17回書道パフォーマンス甲子園本戦出場校発表



W 出場を決めた川之江高校 村上優月部長（3年・写真右）
と三島高校 齊藤脩稀部長（3年・写真左）

川之江高校&三島高校
2年ぶり4回目
本戦W出場

**節目の年に
BIGなNEWS!**

7月28日に伊予三島運動公園体育館で開催される「第17回書道パフォーマンス甲子園」本戦出場校の発表が6月14日、しこちゅ〜ホールで行われた。この模様は大会公式YouTubeで生配信され、全国の高校書道部がこたすをのんで見守った。

「書道パフォーマンス甲子園の聖地」四国中央市を目指し、今大会にエントリーしたのは32都府県109校。全国を7つのブロックに分け、厳正なる予選審査が行われた。中でも激戦区となった四国ブロックでは、わずか4校の枠を巡り20校が競った。

その狭き門を見事トップの成績で通過し、2年ぶり4回目の本戦出場を決めたのは地元川之江高校だ。そして、これまでに2度の優勝を誇る三島高校も4位の成績で予選を通過し、4大会連続13回目の本戦出場を決めた。2年ぶりのダブル出場となったことについて両部長は「市発足20周年の年に、そろって本戦出場できることが本当に嬉しいです。会場だけでなく、まち全体が盛り上がるようなパフォーマンスをしますので、ぜひ見に来てください」と話した。



能登高校 書道部
橋本紗奈 部長

[石川県鳳珠郡能登町]

震災から約4か月間、仲間と会えずに寂しい気持ちを経験した私たちだからこそできる、力強いパフォーマンスをしたいと思います。そして何より、この能登半島地震で被災された方々へ心からお見舞い申し上げます。また今もなお、復興に尽力されている方々へ敬意を表すとともに、深く感謝いたします。

震災後は、町の姿を見るのも辛く、うつむいてばかりいました。でも、たくさんの人の助けで書道を続けることができました。この大会に出場できるのは、先輩方が部員数の少ない時でも予選に出場し続けてくれたおかげです。先輩たちの熱い思いを胸に刻み、応援してくださった方々への感謝を忘れずに今の私たちの想いを、夢に見たこの大きな舞台で精一杯表現します！



日本航空高校石川 書道部
松本朱花 部長

[東京都青梅市（一時移転）]

1月1日に発生した能登半島地震は、石川県を中心に甚大な被害をもたらした。発生から半年が経過した現在でも、多くの人が避難生活を余儀なくされている。大会実行委員会は「学校や地域の方々に夢や希望

を感じていただき、復興の一助としたい」と、予選にエントリーしていた能登高校と日本航空高校石川を「復興応援枠」として本戦に招待することを決定した。両校の部長からメッセージが届けられたので紹介する。

能登高校&日本航空高校石川
復興応援枠で出場

**記念イヤーの大会に華を咲かせる
顔ぶれは次ページに掲載！**

